

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経済学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 授業形態、教材の多様化に伴う既存教室の機器などの改善を図る。	→教室へのプロジェクター設置割合。教員の機器使用要求への対応率。	B
2. 大学院生や研究員をTA (Teaching Assistant: ティーチングアシスタント)、そして学部3・4年生をLA (Learning Assistant: ラーニングアシスタント) とするチューター制度やメンター制度を確立させ、5年後にはTAを10名、LAを20名とした組織にする。	→チューターやメンターを担当する大学院生・研究員および学部上級生の数。および、1人あたりのチューターやメンターが担当する学生数。	C
3. 会議など事務的負担を軽減することによって研究時間を確保する。	→学部で設置する委員会数。メールによる持ち回り委員会の開催数。	D

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目9.0.4	(方針) 教育研究環境の整備 (現状説明) 1. 教室への天吊プロジェクターの設置はC号館での設置率が約26% (2008年度は13%) となり、計画的に進行している。また未設置教室で使用する可動式プロジェクターも数多く導入し、かなりの部分で要求を満たすことができる状態となっている。PC貸し出しも、ほぼ100%対応できているが、旧機種が多く若干の影響が出てきている。その対応として2009年度にはPC20台を新規導入し、2010年度には旧機種全てをリプレース予定である。ただし、プロジェクターを含め、設置できない教員へのサポートやトラブル発生時の対応は、建物管理者だけでなく教務補佐も対応しているが、十分とはいえない場合もある。 2. 学部生のLAの導入はまだであるが、研究員、大学院生によるTAは20名が登録し、情報系を中心とした授業補佐となっている。また時間待機による相談業務も行い、チューター・メンターとしての役割の役割を担っているが、制度化には至っていない。 3. 教員による各種委員会委員数の減少、会議開催の効率化には至っておらず、メールによる持ち回り委員会も2009年度は数件程度である。
☆ その他	

《特定6項目データ》

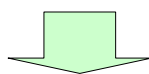
本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【経済学部】		単位	2006	2007	2008	2009	2010	備考	
指標1	専任教員一人あたりの授業時間数	時間	→	→	→	→	→	大学基礎データ表22参照	
指標2	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、授業補佐の採用数	教学補佐	人	21	25	37	20	23	他に、契約助手2 (2005、2006、2007、2008、2009、2010年度)
		実験実習指導補佐・教務補佐	人	3	3	3	3	3	
		授業補佐	人	0	0	0	0	0	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

★	小項目9.0.4	PCやプロジェクターの新機導入に伴い、要求に十分に応えるだけの台数提供が可能となっている。
	その他	



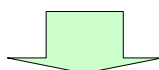
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

★	小項目9.0.4	2010年度には天吊プロジェクターの増設、旧機種PCのリプレイスなどが予定されており、さらなる教育環境の充実が見込める。
	その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

★	小項目9.0.4	
	その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

★	小項目9.0.4	
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

TA、LA制度による教育の充実が期待されます。各種委員会委員数の減少、会議開催の効率化については、更なる工夫が求められます。

【学内委員】

○会議数削減などの改善策を書いても良いのではないのでしょうか。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★	なし
---	----

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

9.0.0.S1	個人研究費・研究旅費の額
9.0.0.S2	留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況
9.0.0.S5	科研費の申請・採択件数
9.0.0.S6	学外からの研究費の総額と一人当たりの額
9.0.0.S11	専任教員の発表論文数
9.0.0.S13	学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文件数
9.0.0.S14	21世紀COEプログラムの採択状況
9.0.0.S15	文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況
9.0.0.S16	特定プロジェクト研究センター制度の活用状況
9.0.0.S18	校地、校舎、講義室・演習室等の面積
9.0.0.S21	教室の種別数と利用率
9.0.0.S22	PC設置台数
9.0.0.S23	研究設備(文科省補助、学院購入)の整備状況
9.0.0.S24	シャトルバスの利用状況

<個別的な指標>
